

## KYOTO 地球環境の殿堂とは

「京都議定書」誕生の地である京都の名のもと、世界で地球環境の保全に多大な貢献をした方の功績を永く後世にわたって称えるものです。

京都から世界に向けて広く発信することにより、地球環境問題の解決に向けたあらゆる国、地域、人々の意志の共有と取組に資することを目的として、気候変動枠組条約第3回締結国会議（COP3）が開催された、国立京都国際会館にその功績を展示します。



## What is the Earth Hall of Fame KYOTO?

The Earth Hall of Fame Kyoto is an award to honor in perpetuity the achievements of those who have contributed to conservation of the global environment. It is given in the name of Kyoto, the birthplace of the Kyoto Protocol.

We hope to contribute to the efforts and shared purpose of all people, regions, and countries dedicated to solving our planet's environmental problems by sending a message from Kyoto to the rest of the world at this commendation ceremony, which is to be held at the Kyoto International Conference Center, the very same venue as the Third Conference of the Parties to the UN Framework Convention on Climate Change (COP3).



### 「京都議定書採択時に使用された木槌」

1997年に国立京都国際会館で開催された気候変動枠組条約第3回締結国会議（COP3）において、会議の議長を務めた大木浩氏（元環境庁長官）が、京都議定書を採択する歴史的な瞬間に使用した木槌

### 【展示コーナー見学】

● 10:00～16:30

（国立京都国際会館の開館日に準じますが、会場使用状況によりご見学いただけない場合もございます。）

● 団体（10名以上）見学は予約制です。

### 【見学ご予約・開館日のお問い合わせ】

● 国立京都国際会館（〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池）

● TEL. 075-705-1234

## KYOTO 地球環境の殿堂運営協議会

- 京都府
- 京都市
- 京都商工会議所
- 環境省
- 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所
- (財)国際高等研究所
- (財)国立京都国際会館

### KYOTO 地球環境の殿堂運営協議会 事務局

京都府文化環境部地球温暖化対策課内  
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入ル藪ノ内町  
TEL. 075-414-4708  
FAX. 075-414-4705

# KYOTO 地球環境の殿堂

The Earth Hall of Fame KYOTO



……KYOTO 地球環境の殿堂 第1回殿堂入り者……



グロ ハルレム ブルントラント

(ノルウェー王国、1939ー)

元「環境と開発に関する世界委員会」  
委員長/元ノルウェー首相

Gro Harlem Brundtland (Kingdom of Norway 1939ー)

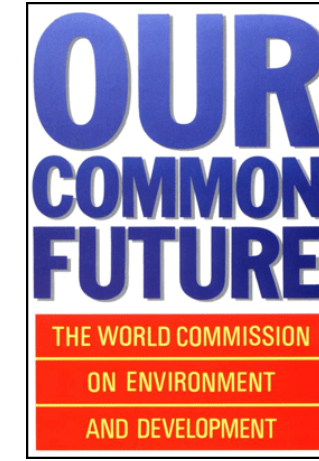
Former chairperson for the World Commission on Environment and Development(Brundtland Commission) and former Prime Minister of Norway.

1939年、ノルウェーのオスロに誕生。1963年オスロ大学を卒業し、1964年ハーバード大学へ留学。帰国後、医師(小児科医)を務める傍ら、労働党でも活躍。1974年、ブラッテリ内閣の環境相に就任。1981年2月、女性として初めてノルウェー首相に就任。

1984年から1987年まで、国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」(World Commission on Environment and Development, WCED)は、彼女が委員長を務めたことからブルントラント委員会の名称が定着。

同委員会で1987年に発行した最終報告書"Our Common Future" (邦題『地球の未来を守るために』)では、環境保全と開発の関係について「将来世代のニーズを損なうことなく現在の世代のニーズを満たすこと」という「持続可能な開発」の概念を提唱。

この概念はその後の地球環境保全のための取組の重要な道しるべとなるなど、今日における地球環境保全の国際的な政策形成に貢献。



(サイン入り著書を展示)

「Our Common Future」

1984年から1987年まで、国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」(通称ブルントラント委員会)で1987年に発行した最終報告書。

この著書の中で提唱された環境保全と開発の関係について「将来世代のニーズを損なうことなく現在の世代のニーズを満たすこと」という「持続可能な開発」の概念は、今日における地球環境保全の重要な道しるべとなってきた。



真鍋 淑郎

(アメリカ合衆国、1931ー)

プリンストン大学大気海洋研究プログラム上級研究員、日本学士院客員

Syukuro Manabe (United States of America 1931ー)

Senior meteorologist in the Atmospheric and Oceanic Sciences Program at Princeton University and honorary member of the Japan Academy.

1931年、愛媛県四国中央市に誕生。東京大学理学部卒業後、同大学院に進み、1958年、理学博士を取得。その後、米国気象局大気大循環研究部門研究員となり、1976年、米国市民権を取得。

1960年代に放射対流平衡モデルを用いて大気の平均鉛直構造をはじめて再現し、温室効果気体の決定的な役割を定量的に解明。その後、カーク・ブライアン氏とともに海洋大循環モデルと結合させることで、地球気候の基本構造を捉えることに成功。

この世界初の大気・海洋・陸面過程結合モデルを用いて、温暖化気体である二酸化炭素を人為的に増大したときに、地上の平均気温など地球気候がどのように変化するかを明らかにする研究を推進。

このモデルは、国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)によって導入されている、気候変動シミュレーションのプロトタイプとして活用されているなど、地球温暖化予測の先駆者として貢献。

「鉛直一次元放射対流平衡モデル」(1967年)

大気を地上から上空までの一本の柱と仮定し、空気の対流や熱放射などの条件を加味して高度の違いによる温度の変化をコンピューターで計算し、その結果、地上から十数キロまでの対流圏では、気温は高度とともに徐々に下がり、それより上空の成層圏では高度とともに上がるという現実の大気の状態と同じ温度分布を再現することに成功した。

これらの研究成果は1990年のIPCC(気候変動に関する政府間パネル)の第1次報告書にも引用されるなど、気候変動メカニズムの科学的解明と温室効果ガスの増加に伴う気候変動の将来予測を可能にした画期的な研究基盤となった。

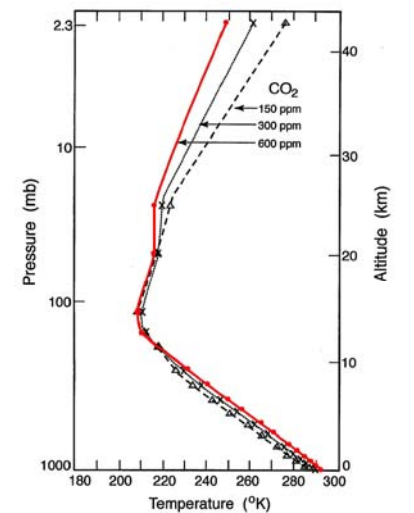


Figure 3.5 Vertical profiles of temperature in radiative, convective equilibrium. Solid, dotted, and dashed lines illustrate the profiles for three different CO<sub>2</sub> concentrations of air, i.e., 600ppm, 300ppm, and 150ppm by volume, respectively. From Manabe and Wetherald (1967).



ワンガリ マータイ

(ケニア共和国、1940ー)

元ケニア共和国 環境・天然資源・野生動物省副大臣

写真提供：毎日新聞社

Wangari Muta Maathai (Republic of Kenya 1940ー)

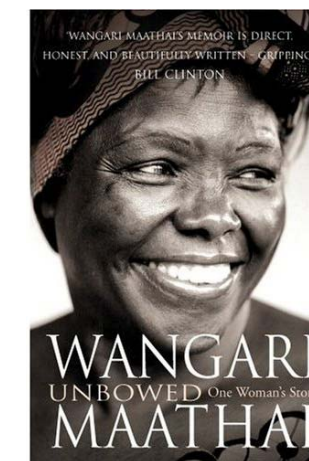
Former Vice Minister for Environment and Natural Resources of the Republic of Kenya.

1940年、ケニア中部のニエリに誕生。アメリカ、カンザス州のマウント・セント・スコラスティカ・カレッジ卒業後、ピッツバーグ大学で修士号、ナイロビ大学で博士号(獣医学)を取得し、1977年にはナイロビ大学准教授に就任。

1977年にグリーン・ベルト・ムーブメントを設立して土壌の浸食と砂漠化を防止する植林活動を開始し、1986年に全アフリカ・グリーンベルト・ネットワークに発展、アフリカ大陸全土で植林活動を行い、民主化や持続可能な開発を推進。

2002年に国会議員となり、2003年から環境・天然資源・野生動物省の副大臣を務め、ケニア・マジンジラ緑の党を設立して代表に就任。

2005年2月、京都で開催された京都議定書発効記念行事に出席するため来日した際、日本語の「もったいない」という言葉の意味に感銘を受け、世界各地で環境のキーワードとして「MOTTAINAI」の言葉を普及させるなど、環境と共生する思想の普及や環境保全活動の実践に貢献。2004年ノーベル平和賞受賞。



(サイン入り著書を展示)

「UNBOWED」

2004年ノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイ氏の著書。度重なる苦難にも「へこたれない(UNBOWED)」不屈の姿勢でアフリカでの植林活動や女性の地位向上に取り組んだ激動の半生を綴った初めての回顧録